

学力調査等の状況	
<p>・全国学力・学習状況調査においては、国語で全国平均を2.2ポイント、都平均を4ポイント下回っている。算数では、全国平均を4.5ポイント上回り、都平均と同程度だった。昨年度に比べて、算数は改善されていることが分かる。</p> <p>・国語では、知識及び技能の正答率は高かったが、思考力、判断力、表現力等「話すこと・聞くこと」「読むこと」の内容の正答率が低かった。また、記述式の回答の正答率が低かった。</p> <p>・算数では、データの活用の前正答率が低かった。記述式の正答率は全国、都と比較して高かった。</p>	

見えてきた課題	
<p>・学力調査等の状況から、国語では、基礎的・基本的な言語事項を定着させ、文の主旨を探し、要約する等の読解力を高めていく必要がある。また、話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり広げたりすることができるように指導していく必要がある。</p> <p>・学力調査等の状況から、算数では、四則演算や作図などの基礎的・基本的な技能を引き続き高めていく必要がある。</p> <p>・学力調査等の状況から、児童質問紙調査では「授業以外に1日どのくらい読書をしますか」という質問において、半数程度の児童が「10分より少ない、全くしない」と回答しており、学校図書館や地域の図書館は8割程度の児童が授業以外では利用していないことが分かった。読書活動をさらに意図的に設定していく必要がある。</p>	

授業をデザインする8つの取組について	
ICT機器の活用	全学年で毎日chromebookを利用し、学年に応じた使用方法により効果的な発信方法を積み重ねる。そして、多様な考えを共有し、対話的な学びができるようにする。
価値ある対話の共有	教科の特性に応じた言語活動の充実を図り、自分の考えをまとめ、他の考え方と比較・分類することを通して、聞く・話す活動を計画的に実践定着させ、討論ができる表現力を身に付けさせる。
認め合う・学び合う集団の形成	多様な考えや様々な人権課題に触れる中で、他者と自己の考えや生き方の差異点や共通点を見出し、人権感覚を養う。

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
国語科	螺旋的且つ反復的に言語活動を計画し、何をどのように学ぶのかを目的を明確にした授業づくりを行う。見直しをもって主体的に学ぶことを通して、確かな言語能力を養う。	言語環境を整えるとともに、基礎的・基本的な言語事項について繰り返し学習を進め、理解を深めさせる。主語・述語を意識させた短い文章を書く機会を多く設ける。なんなる100冊の読書活動や親子読書を推進、定着させることにより、多くの本に触れ、本を読む機会を設定する。	文章構成を明らかにしながら文章を読み取る学習を繰り返し、論理的な文章について理解を深める。接続語を使って、はじめ・中・終わりの文章構成を意識しながら論理的な文章を書く経験を積ませる。また、目標をもって、シリーズの本に触れたり、ノンフィクションの本を紹介したりする読書活動を設定する。	段落同士の関係を明らかにしながら読み深め、筆者の意図を読み取り、自分の考えを表現する学習を計画的に行う。書く力を一層付けていくために、相手を意識しながら書く活動を積み重ねる。また、教科書教材の並行読書を取り入れるなど様々なジャンルの読書を推進するとともに、目的をもって読書させ、その本の持つ良さを紹介する活動を設定して行う。
社会科	各種資料等を読み取り、思考ルールを活用することで社会的な見方、考え方を働かせ、よりよい社会の実現のために自分なりの考えをもつことができ、また、実践できる。SDGsにも取り組んでいく。	(中学年からのスタートに向けて生活科で意識する指導の重点)自分と身近な人々、社会及び自然との関わりについて、見つける・比べる・例えるなどの学習活動を通して考え、それらのよさや自分との関わり気付く活動を設定する。	様々な資料について必要な情報を読み取ったり、読み取ったことを比較・関連付けたりできるようにする。また、調べる過程で思考ツールの書き方を習得させ、知識を広げたり深めたりできるようにする。	資料から読み取った情報を基に、見方・考え方を働かせながら、思考ツールを活用し比較・関連・総合し、学習問題に対する自分の考えを明らかにさせていく。主体的に学べる学習計画づくりを実施する。また、世界で起きている社会問題について、自分事として捉え、SDGsの視点を取り入れた学習活動を展開していく。
算数科	既習事項と未習事項との関連を図ることで、系統的な学習になるようにしていく。また、習熟度に合わせた少人数指導をすることによって、知識の定着を確かなものにしていく。説明する場面や考える場面を設けることで思考力・判断力・表現力を高めていく。	日常生活や身の回りのものと繋げたり、具体的な操作を積極的に取り入れたりすることによって、数量や図形に対する感覚を豊かにしていく。また、表現をする場で新しく学んだ用語を取り入れながら説明する態度を育てる。	低学年での学習を生かしながら問題解決していく態度を養う。四則演算や作図などに繰り返し取り組むことで基礎的・基本的な技能を高める。また、具体物や図を用いながら未習の数量や図形、四則演算などの知識を定着させていく。	数の性質や図形、式などについての知識を確実なものにしなが、既習事項の考え方を生かして未習の図形や数量、計算などを問題解決する場を設け、数学的に考える力を育てる。
理科	共通体験や効果的な観察・実験を行い、探究的学習活動を通して、科学的な見方や考え方、問題解決能力を定着させる。また、学習を通して身に付けた知識を、自然や日常生活に当てはめて考えさせたり、科学的な言葉や概念を使用して説明させたりする指導を充実させる。	(中学年からのスタートに向けて現時点で意識する指導の重点)いろいろな体験(実験)をさせ、自身の操作によって事象がどのように変化するか着目する力を身に付けさせる。	観察・実験をする時間と記録する時間を十分に確保する。また、探究的学習活動から気付かせることで学習問題を作成し、根拠のある予想を立てられるようにする。	毎時間観察・実験をする際に必要な条件や適切に記録を取る方法を結果から分かることについて伝え合い、考えることで科学的な思考を高める。

⑮-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
生活科	各教科との関連を図りながら、直接体験を中心とした活動の充実を図り、主体的に判断し、問題を解決する力を定着させる。ボランティアコーディネーターと連携を密にし、計画的に地域の教育力を取り入れていく。	各教科との関連を図り、直接体験を軸として、表現活動を充実させている。また、課題を設定できるような教材を提示し、問題を解決していく力を身に付けさせるようにする。 農業ボランティアをはじめ、町探検、昔遊び、生活科見学などで地域の方々に協力を仰ぐ。 成長単元に関しては、人権教育との連携を図る。		
音楽科	楽譜を読む活動を繰り返し行うことにより、旋律の動きと強弱の関係、リズムと曲想の関係など音楽的な見方や考え方を育み、思いや意図をもって表現を工夫する力を育成する。	旋律の音を読み、旋律の動きを指でなぞったり体を動かし表現し、音高を意識できるようにする。鑑賞では音楽に合わせて体を動かすことで、音色や拍感の変化に気づきながら音楽を親しむことができるようにする。また、感じ取ったことや気付いたことを基に、表現の工夫を行い、音色やリズムに気を付けて演奏する技能を身に付ける。	旋律の音を読み、旋律の動きを指でなぞったり体を動かし表現し、音高やリズム、旋律の特徴や変化を意識できるようにする。鑑賞では音楽に合わせて体を動かすことで、旋律や拍感の変化に気づきながら音楽に親しむ。また、感じ取ったことや気付いたことを基に表現の工夫を行い、思いや意図をもって歌ったり、楽器を演奏する。	旋律の音を読み、旋律の動きを体で動かし表現し、旋律の変化や音の重なりを意識する。鑑賞では指揮をしたり、旋律を歌うことで、曲想の変化に気づきながら音楽に親しむ。また、感じ取ったことや気付いたことを基に表現の工夫を行い、音の重なりを感じ取り、思いや意図をもって歌ったり、楽器を演奏する。
図工科	作品制作などの活動を通して、必要となる基本的知識や技能の自然な定着を図り、自ら作り出す喜びを感じられるようにする。	手や体全体の感覚などを働かせ材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的に作ったり表したりすることができるようにする。 また、作品制作などの活動を通して、必要となる基本的知識や技能の自然な定着を図り、自ら作り出す喜びを感じられるようにする。	手や体全体を十分に働かせ材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的に作ったり、表したりすることができるようにする。 また、作品制作などの活動を通して、必要となる基本的知識や技能の自然な定着を図り、自ら作り出す喜びを感じられるようにする。	材料や用具を活用し、表し方などを工夫して、創造的に作ったり表したりすることができるようにする。 また、作品制作などの活動を通して、必要となる基本的知識や技能の自然な定着を図り、自ら作り出す喜びを感じられるようにする。
家庭科	日常生活での衣食住や家族に関する経験と関連させながら課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践することを通して、家族の一員として生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を育てる。			児童の身近にある題材や生活課題を取り上げ、実物を具体的に提示すると共に、学習のねらいを明確にして学習の見通しをもちやすくする。課題解決にあたって、自分の考えを明確にしたり深めたりするために、児童同士で意見交換をする場を設定する。実物投影機などのICT機器を活用することで、一つ一つの手順を理解できるようにする。
体育科	高学年は体力テストの結果を踏まえ、持久力・瞬発力の強化を図る。その際、コーディネーショントレーニングを、体づくり運動や各領域の補助運動として取り入れる。中・低学年はランなる期間やなわ跳び週間を中心に持続的な取り組みを行い、基礎体力の向上を図る。また、学習の中で気付きや工夫を伝え合う活動を積極的に取り入れるようにする。	体育の準備運動では、コーディネーショントレーニングを取り入れた準備運動を継続的に行っていくことで、自分の体をよりスムーズに動かす能力を高めていく。また、休み時間には外遊びを積極的に行わせ、日常的に運動する習慣を定着させる。ランなる期間やなわ跳び週間には、目標を達成する喜びを味わわせる声掛けをしていくことで、運動への前向きな姿勢を育むとともに、基礎体力の向上を図る。	ランなるやなわ跳び週間を中心に持続的な運動習慣の形成に自分から取り組めるようにする。また、体育の準備運動の中でコーディネーショントレーニングに継続的に取り組むことで、自分の体の適切な動かし方を理解し、様々な運動に前向きに取り組む態度を養う。友達と互いの動きを見合ったり、練習の工夫や作戦を伝え合ったりする活動も取り入れ、相互の考えを認め合う力を身に付けさせる。	ランなるやなわ跳び週間を中心に持続的な運動習慣を自ら形成できるようにする。体育の準備運動では、コーディネーショントレーニングに継続的に取り組んでいくことで、体の適切な動かし方を理解したり、自分の課題を解決するための方法を考えたりできるようにする。また、自分や友達の気付きや考えを共有する場面を設定し、運動場面における思考力・判断力の向上を図る。
外国語科	聞くこと、話すことに加え、読むこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーション能力を高める。			言語活動を通して、聞くこと話すこと書くことができるようにし、コミュニケーション能力を高めていく。

⑮-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
総合的な学習の時間	計画的に地域の教育力を取り入れ、体験的な学習の充実を図り、主体的に判断し、よりよく問題解決する力を育てる。学校図書館を活用した情報収集能力の向上を目指す。		計画的に地域の人と連携を図り、様々な教科と関連付けながら、体験的な学習に取り組ませる。体験学習等においては、また、他の教科と横断的なカリキュラムマネジメントができるようにしていく。3学期には、これまで学習してきた成果を学習発表会で発表し、SDGsの視点と関連させる。	地域の方や専門家と連携を図り、自ら課題を立て、主体的に判断し、よりよく問題解決できるように授業を組み立てていく。学習内容として、人権課題の学習も位置付けていく。3学期には、これまで学習してきた成果を学習発表会で発表し、SDGsの視点と関連させる。
特別の教科 道徳	家庭や地域との連携を図り、規範意識や思いやりの心、人権教育、生命尊重の心を、実践場面を通して育む。	あいさつなどの基本的な生活習慣や社会生活上のきまりを身に付けること、善悪を判断できるようにすることを重点的に指導する。授業では、一人一人が考えをもてるように、ペアでの対話を充実させたり、全体で共有した際に近い考えを取り入れたりすることができるようにする。	集団や社会のきまりを守り、身近な人々と協力し助け合う態度を身に付けることを重点的に指導する。授業では、より多様な考えに触れて自分を見つめ直すことができるように、グループ対話を充実させたり、思考を深めるツールを活用して指導したりする。	多様な立場を理解し、支え合う態度を身に付けること、地域社会の一員としての自覚をもち、役割と責任を果たすことを重点的に指導する。授業では、悩みや葛藤などの心の揺れ、人間関係の理解などの課題を積極的に取り入れたり、課題に応じて心情グラフ・ベン図・座標軸などのツールを活用したりして、より多角的に考えられるようにする。
特別活動	児童主体の学級会を校内全体で進める。縦割り班活動の充実を図り、温かな人間関係や他者を思いやる心情、社会性を育む。	話合いの約束に沿って友達の意見を聞いたり、自分の意見を言えるようにしたりして、合意形成を図ることができるようにする。縦割り班活動を充実させ、異学年と関わることの楽しさや、協力することの大切さを実感できるようにする。	理由を明確にして意見を言えるようにしたり、異なる意見も受け入れたりして、合意形成を図ることができるようにする。上級生との関わりを通して、親しみや憧れ、尊敬の気持ちをもたせるようにする。	自分の言葉で建設的な意見を述べ合えるようにし、多様な意見のよきを生かして楽しい学級や学校生活をつくるためによりよい合意形成を図るようにする。リーダーとしての経験を重ねながら自分の役割を果たすなどの主体的な取組を通して、高学年の自覚や自分への自信を高められるようにする。
外国語活動	聞くこと、話すことの言語活動を通して、基本の挨拶や定形表現に慣れ、積極的に発話できる力を身に付けさせる。	視覚的、聴覚的アプローチを通して、外国語に親しみを感じることができるようにする。ゲームのように楽しめる活動を取り入れることで、意欲をもって参加できるようにする。	視覚的、聴覚的アプローチを通して、外国語に親しみを感じることができるようにする。既習内容を生かしながら、「できた」「わかった」と感じることができる経験を積み、主体的に学習できるようにする。	